新しい釜石市総合計画策定に向けた

提言書



令和２年８月７日第10回かまいし未来づくり委員会・令和２年度第２回かまいし絆会議～未来への第１歩～

令和２年１１月１６日

かまいし未来づくり委員会

目　次

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

釜石市の将来像への提言・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

将来像の実現に向けた市民の役割・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5

基本目標への提言・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6

部会別提言
　保健福祉部会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
　教育文化部会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
　産業雇用部会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
　生活環境部会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
　危機対応部会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
　地域づくり部会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20

資料編・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22

提言書概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・42

はじめに

東日本大震災という未曽有の災害に遭いながらも沢山の皆様からお力添えを頂き、いっぽ一歩復旧復興への歩みを進め、記念すべきラグビーワールドカップ日本大会では被災地と呼ばれる場所で唯一の開催地となり、新設されたスタジアムでは、試合当日、沢山の大漁旗が元気よくはためき世界中の皆さまへご支援に対する感謝の気持ちを発信した我がまちの真価が問われるであろう令和３年から向こう10年の釜石市総合計画策定にあたり、私たちは市民公募により集う62名の「かまいし未来づくり委員会」として昨年の12月26日に発足致しました。

『釜石の未来を少しでも良いものにしたい』との思いで集まった私たちが提言書を提出するにあたり進んできた道のりは決して平坦なものではありませんでした。
10年後のあるべき将来像を描き、基本目標を設定し、その目標を実現する為の戦略を考えるこの総合計画策定への提言作成プロセスは初めての試みであり、委員会が第1回、2回目を終えた時点で、これまで経験したことのない戸惑いや慣れない作業を体感する中で、委員それぞれの考え方や捉え方の違いに『本当に提言書を作り上げることが出来るのだろうか』と大きな不安を抱きました。

それでも未来を思い集う委員を信じ「最善を尽くそう」と前向きに、委員ひとり一人の思いを大切にそれぞれの意見を否定する事なく沢山の付箋に書き止め、何度もその意味を確認しあいながら「これからの釜石がどうあるべきか」を真剣に議論してきました。

このスタンスは全市民取りこぼすことなく明るい地域を目指すために大切にしてきました。

限られた時間の中で開催される委員会では足りない時間を補おうとそれぞれの部会で自主的に集まり議論を深めました。

世代、性別、置かれた環境や立場など全ての違いを受け入れ、私たちと事務局始め行政の皆さんが同じ市民として尊重し合いながら未来を描き提言書を作り上げていく過程は、釜石市がより良い未来へ向かう為に本当の協働を進めていく契機となるのではと考えます。

これから策定される総合計画においてこの提言書を取り纏めた私たちは、総合計画策定に際し、この提言がどのように受け止められ反映されていくのかに関心を持ち、出来上がった総合計画に対し、多くの市民を巻き込み実践者として主体的に関わる決意を心に携え提出させて頂きます。

かまいし未来づくり委員会　委員長　青木　健一

私たち「かまいし未来づくり委員会」は、釜石市の新しい総合計画の策定にあたり、市民協働のまちづくりの方向性について検討するため、公募市民で組織し、未来の釜石市のあるべき姿について一人ひとりのアイディアを尊重しながら、熱く、真剣に検討を重ねてきました。

検討にあたっては、保健福祉、教育文化、産業雇用、生活環境、危機対応、地域づくりの6つの部会に分かれ、担当する分野を中心として、分野横断的に検討・議論を進めてきました。

検討する視点としては、総合計画の計画期間が令和3年度から10 年間の長期計画であることから、市の現状と課題の把握にとどまらず、未来の釜石市のあるべき姿や展望を起点にして「誰が」「何のために」「何をすべきか」について、委員相互の情報交換・交流の場を通じて、皆自分事として真剣に考え、持続可能な未来を見据えた思考で検討して参りました。

この度、各部会での検討を経て、釜石市の目指すべき将来の方向性をまとめましたので釜石市長へ提言いたします。

この提言はワークショップ等市民参加の場での意見等を踏まえた釜石市民の声として作成したものであり、新しい釜石市総合計画の策定に活用いただくと共に、行政や民間などの立場の垣根を超え、全釜石市民が自分らしく、笑顔があふれ、地域と人とのつながりを大切にし、一丸となって挑戦し続けるまちになることを願っています。

かまいし未来づくり委員会　委員一同

釜石市の将来像への提言

〇釜石市が 10 年後目指す将来像の位置付けについて

目指すべき将来像は長期的な視点から市全体で目指す将来の目標であり、総合計画に基づいた取り組みを進める中で、10 年後の釜石市がどうあるべきかを表現するものです。

一人ひとりが学びあい
世界とつながり未来を創るまち かまいし
～多様性を認めあいながらトライし続ける不屈のまち～

東日本大震災で私たちは、大切なものを多く失いましたが、同時に大切な事に気づくことも出来ました。行政と市民が本当の意味で協働すること。互いに主体性を持ち、互いの特性を理解し、ともに課題解決に取り組んだ経験はとても大きな価値を持ちます。

その経験から今後 10 年の釜石のあるべき姿を考えたとき、市民は市に対して要望、要求をあげるだけでなく、主体的に地域に関わり、そして責任を持つことが重要です。

本委員会は釜石市民のみならず、東日本大震災以降釜石と継続的に関わりを持っている方々とともに昨年 12 月より釜石市のこれからの 10 年について６つの部会ごとに真剣に考え、議論を重ねてきました。

将来像に込める想い

震災後、急速に加速した人口減少、少子高齢化、世帯分離、高齢者のひとり暮らし、地域コミュニティのあり方など、様々な要因から派生する社会の課題に対応していくためには、人と人のつながり、地域と人のつながり、地域と地域のつながりがこれまで以上に重要となります。

釜石市内にはＩターン、Ｕターン、支援をきっかけとした移住者、外国人労働者など、さまざまな価値観を持った人たちも増えました。この先のまちづくりには多様な価値観、人、生き方、働き方などを共に認め合い、立場や役割、世代間を超えて学び合うことにより柔軟な思考や新たな発想が生まれ、それを生かし挑戦し続けることも重要です。

東日本大震災からの復興やラグビーワールドカップ 2019™釜石開催の過程において、私達は世界中から温かいご支援をいただきましたが、そこで生まれた世界とのつながりを大切にし、これからのまちづくりに生かしていきます。

これまで釜石市は災害や戦災を乗り越え、復興を成し遂げてきましたが、そこには先人たちの「鐵」のような意思の強さやたくましさを感じます。

これからは先人から受け継ぐ意思の強さと共に、「鐵」のように何度でも形を変え、生まれ変わり進化し続けるしなやかさといったマインドを積み重ねていきながら、力強くも、めまぐるしい時代の変化に柔軟に対応し、信念を持ちながら、しなやかに未来を創っていきます。

・釜石のことを自分事として一人ひとりが主体性を持つこと。ONE チーム精神が釜石に根付くことを願っています。みんなが主役。
・釜石が一つとなって未来に向かって前進しようという願いを込めて。
・標語的に主役はやはり市民であるべきと表わしたほうが良いと思う。
・釜石を自分事として考えていくのは町にとって大事。
・釜石に住む方全員がヒーローになることでだれもが強く生きられると思う。
・市民一人ひとりを誰も取りこぼすことなくみんながみんなのために当事者意識をもってまちの未来を創っていく意思表示。
・一人ひとりが幸せで自分らしく生きられるまち。そしてそのために助け合い、思いやり、支えあうまち釜石。
・みんなで未来の釜石を一緒につくる、つくりたいという思いを込めて。
・先人の郷土愛と共に。
・年齢・性別関係なくつながりを大切にしたい。
・まちをつくるのは行政でも民間でもなく「わたしたち」。誰でもまちをつくる欠けてはいけない要素である。
・次の 10 年も釜石は鉄のような強くもありしなやかに、信念を持ちながらも時代に合わせた変化をできるまちになってほしい。
・様々な人、様々な生き方や働き方を受け入れて認め合う事が大事。現状に甘んじないで挑戦していく気持ちを忘れないで取り組んでほしい。
・これからは多様な価値観を認め合う時代です。自分と違うから面白い、素晴らしいと思える街にしたいですね。成功事例はそれぞれで良い。
・常に変化を恐れず、成長を続け生き残っていく人々であり、まちでありたい。
・鉄は廃れる。１つのものに頼るのではなく（＝しなやかに）まちづくりにトライしていくイメージが良いと思った。
・釜石内外も含めた多様な人がお互いを高めあいながら釜石の挑戦を続けていってほしいと思った。
・鉄の歴史、戦災、自然災害からの復興は挑戦し続けた結果、誰もがみんながではなく多様を認めるとしたのが新しい観点。
・「みんな」という言葉に苦手感があるのが今の若者たちかなと思う。まちに「多様」を認めてもらえるということは安心して守られている気持ちを持てるような言葉だと思います。
・ひとりはみんなのために、みんなは釜石のために。
・個人の思いが認められる優しい世界、共感が力になりまちを支える動力に。支えあいと挑戦。

私たちが理想とする将来像の実現のためには、一人ひとりが釜石のことを自分事と捉え、自分たちのまちは自分たちでつくるといった主体性を持ち、多様性を認め合いながら、まちづくりに取り組んでいくことが必要となります。
また、市民がまちづくりに主体的に関わるための仕組みを構築し、市と市民が共に取り組んでいくことが新たな釜石の未来へつながっていくものと考えます。

将来像の実現に向けた市民の役割

未来づくりの実現には一人ひとりが自分事として当事者意識を持って行動することが求められます。また、幅広い可能性ある未来をつくるには、画一的な考え方や役割に縛られることなく、それぞれの生き方や働き方、考え方の多様性を尊重し、受け入れる土壌づくりが不可欠です。また、震災復興の次の 10 年に世代を超えて立ち上がってきた経験や精神を受け継ぎ、さらに活用する姿勢が大事であると考えています。

①私たちの位置づけ

『私たち市民一人ひとりが当事者として未来づくりを目指していきます』

②私たちの役割

『私たち市民は未来づくりの目標に向けて、それぞれの立場でできることを考えて能動的に行動します』

③私たちが大事にしたいこと

『私たち市民は釜石の未来に関心を持ち、多様性を受け入れ互いに支えあうこと、数度の災害から立ち上がってきた撓まず屈せずの精神と復興の経験を活かすことを大事にしていきます』

基本目標への提言

○基本目標とそれを実現するための戦略、実行者について

基本目標は、釜石市が 10 年後目指すべき将来像の実現に向けた基本的な方向を明らかにしたまちづくりの分野ごとの目標です。

戦略は基本目標の理念を支え、実施施策と乖離しないようにつなぐものであり、基本目標を実現するための重要なことに位置付けられます。

多様な市民のニーズに応え、みんなが快適に暮らしていくためには、市民、企業、行政等、多様な担い手と今まで以上に協働してまちづくりを推進していく必要があることから、実行者についても検討を行いました。

総合計画は内容が広範囲に及ぶことから、効率的な運営を図り、活力あるまちづくりを推進するため、保健福祉部会、教育文化部会、産業雇用部会、生活環境部会、危機対応部会、地域づくり部会の 6 つの部会に分け、委員が希望する部会に分かれ、各分野における問題、課題等を整理し基本目標（案）の検討を行いました。

保健福祉部会

●基本目標

あらゆる人の幸せをみんなで考えつくるまち

基本目標に込める思い、決定に至る経過

・福祉というと“子ども”“高齢者”“障がい福祉”の話に偏りがちになるが、働く世代も生きやすく働きがいがあるまちであることも必要。
・前例がないことや他地域で行っていないことを出来ない理由にせず、先進的なチャレンジを推奨するまちにしたい。
・高齢者、子ども、あらゆる世代がつながって、福祉としての取り組みになっていくことが望ましい。一人一人が尊重されることを生きやすさにつなげる。“愛”は保健福祉分野の根底につながる大事なこと。
・地域や年齢を越えて、釜石にいる誰もが自分らしく、身体的な健康寿命を延ばしていくだけではなく、みんなが幸せで心も健やかでいられるまちであってほしい。
・社会構造の中で置き去りにされる人をなくしたい。
・市民が自主的にまちづくりに関わり、みんなが当事者として一緒に考えて作っていく。

■基本目標を実現するために重要なこと

①オール釜石での横断的支援環境づくり

（取組主体：オール釜石）

福祉的な課題は行政・社会福祉法人や NPO・企業・住民等、それぞれだけでは解決が難しい。縦割りではなく、横断的に協働していきたい。

（具体施策）

・担当者どうしの顔がしっかり見える形の交流機会づくり→各地区生活応援センター、地域会議、センター会議の連携強化
・情報共有ネットワーク（機械的システム、人的ネットワーク）の強化

②健康への投資や教育の積極的な推奨

（取組主体：行政・企業・一般市民）

健康への投資や教育が推奨される体制作りや意識付けを積極的に行い、社会活動や個々の行動の中で健康への関心を高めていきたい。

（具体施策）

・健康寿命日本一へのトライ（脳卒中死亡率ワーストからの脱却）
・減塩食の普及促進
・予防教育や啓発活動の推進
・医療に頼らない健康指針の確立
・運動・スポーツの推進

③子どもや要配慮者の権利の保障

（取組主体：行政・NPO 等の非営利グループ・障がい福祉事業者・自主活動グループ）

子どもからお年寄り、健常者から障がい者まで、年齢や性差の隔てなく、全ての人に社会参画の機会が保障される社会を作りたい。

（具体施策）

・子どもの権利条約の独自採択及び履行
　→「生きる権利」「育つ権利」「守られる権利」「参加する権利」
・子どもに直接届く支援の形を考える機会づくり
　（“子ども支援”は“子を持つ親の支援”とイコールになりがち）
・ハートとハードのバリアフリー政策（※地域づくり部会から拝借しました）
・障がい福祉のための防災指針と災害対策

④社会や個人が支え合う仕組みづくり

（取組主体：行政・企業・一般市民）

行政や専門的な職業に委ねるだけでなく、地域社会や地元企業などのあらゆる人が一人一人を見守る意識や体制を築きたい（市民が見守り、見守られる関係）。

（具体施策）

・民間シェルター（DV／児童虐待）の設置と周知
・当事者や家族支援のための多様な居場所づくり、ゆるやかな見守りネットワークづくり
・詐欺などの犯罪に巻き込まれない地域力の育成
・官民連携による見守り活動・困りごと相談体制の構築

⑤福祉や健康の担い手の充足

（取組主体：行政・企業・NPO 等の非営利グループ）

医療、介護、福祉、保育などの人材を充足させ、質の高い保健福祉を継続的に維持していくための基盤を築きたい。

（具体施策）

・外部人材の積極的な登用
・専門職をサポートする人材の活用や体制の構築
・福祉従事者や保育士、子育て支援に携わる労働者の待遇向上
・中高生やセカンドキャリア向けの独自の教育システム
・介護補助員、託児ボランティア、有償生活支援ボランティア等、地域の互助力や共助力の推進
・福祉支援に携わる団体への活動資金の援助→基金の創設、ふるさと納税を活用した釜石ならではの活用方法
・担い手同士を支え合う仕組みづくりの構築

⑥ICT を活用した見守り、情報伝達、遠隔医療の実施

（取組主体：介護、福祉事業者・医療機関・NPO 等の非営利グループ）

直接会わなくてもコミュニケーションが取れる仕組みづくり

（具体施策）

・高齢者宅への緊急通報装置配付強化
・公民館等拠点施設へのタブレット・Wi-Fi 設置
・ICT を活用した新しい見守りシステムの検討
・オンライン診療の推進
・防災無線ラジオ設置普及の強化
・電話相談窓口の周知強化

■重点施策

・健康寿命日本一へのトライ
・オール釜石でのネットワークの強化
・子どもの貧困への対策
　→DV・虐待防止、児童相談所との連携、親への支援、子ども食堂、社会的相続（健康教育、生活力）、ひきこもり防止

教育文化部会

●基本目標

地域と人のつながりの中でみんなが育つまち

基本目標に込める思い、決定に至る経過

・学校と地域との連携をより促進させることで、釜石らしさを活かした学びを通して郷土愛が醸成され、将来的に釜石に愛着を持って住み続けたり関わり合いを持つ人材を育むことになる。

・教育は学校教育のみならず、生涯学習、文化・スポーツ活動等、子どもから大人まで幅広い世代に関わることから、地域のなかで、世代同士・世代を超えた市民同士の活動を通して相互が学び続ける環境づくりが重要である。

・学校と地域が連携し、キャリア教育や探求型学習の促進が図られるようになり、その結果､まちの課題や自分自身の興味関心に主体的に取り組む児童生徒が活躍している。様々な地域の大人やまちの良いところ／課題に触れる機会を提供し、一人一人がこれからの生き方や進路を自ら考え行動していける力を育むために、各学習段階に応じた取り組みが今後もより必要である。

・釜石には、鉄を始めとした歴史や文化、そこから育まれた暮らしがある。「地域と人のつながりの中」には、そういったまちの背景を踏まえ、子どもだけに限らず、世代を問わず、みんなが地域で育っていく状態をイメージし、その想いを込めた。

・RWC2019 の開催（スタジアム建設）を機に、正真正銘の「ラグビーのまち」になるべく教育文化のみならず産業雇用、保健福祉分野も巻き込んだ all 釜石で取組む。

■基本目標を実現するために重要なこと

①多様な学びの創出

（取組主体：学校、教育委員会、公民館、地域団体）

・多くの命を救った釜石の防災教育をベースとした「いのちの教育」を継続し、未来の命を守るために、自分で考えて選択し主体的に行動できる子どもを育んでいきたい。

・釜石の強みである、つながりを活かしたキャリア教育プログラムをより多くの子どもたちに届ける。特に進学によって釜石を離れた大学生も講師役として取り入れることで、さらに幅広い子どもたちが生き方を選択できる機会とする。

・公民館活動において小中学校と連携し、地域の大人から地元の歴史や文化、食などを学ぶ機会を通して郷土愛の醸成を図ると同時に、多様な市民が教育や生涯学習に参画できる環境づくりを推進する。

②釜石らしい文化の継承
（取組主体：郷土芸能団体、行政（市、教育委員会)、観光事業者、いのちをつなぐ未来館、郷土料理研究会）

・釜石らしい文化の継承を通じて、世代を超えたつながりをどんどん作っていきたい。
・古来より行われていた製鉄文化によって育まれた釜石の歴史・文化、郷土食や芸能や暮らしに触れることで、地域の個性を理解し、郷土愛の醸成へつなげる。
・釜石市防災市民憲章や様々な震災教訓を活かし、災害を文化として継承することで未来の命を守る防災教育を推進する。
・世界遺産、ジオパーク、復興国立公園の理念の構築を図る。鉄の灯を守り自然からの恵みを発展させる。

③釜石らしいスポーツの活用
（取組主体：体育協会、スポーツ団体、サポーター/ファン、体育協会×DMCのような団体、行政（市・県・教育委員会))

・ラグビーワールドカップ 2019™釜石開催の成果を踏まえながら、既存施設を活用して、全市民がラグビーをはじめとしたスポーツに親しむ機会（大会、ラグビーカボチャの普及継続、車イスラグビー等）の創出や環境を整備する。
・真の「ラグビーのまち釜石」になるため、all 釜石で振り切れた取り組みを実施し、市内外の人が釜石でラグビーに親しむことのできる機会（大会、ラグビーカボチャの普及継続、車イスラグビー等）を構築する。
・釜石の鉄文化が育んだラグビーやトライアスロンといった釜石スポーツの、一体感を持ったイメージづくりと推進体制を構築し、スポーツで人が集い、活気が創出されることを促進する。
・釜石シーウェイブスの資産（トレーナー等）による基礎トレーニングを学ぶ機会を設け、各種目の競技力向上を図るとともに、その場でラグビーに親しんでもらう。
・スポーツを通じてコミュニティ（文化・教育・医療・高齢化）社会を作る。

④活動の主体をサポートする取り組み
（取組主体：行政（市・教育委員会)、町内会、NPO ）

・活動に必要となるコスト（時間・移動）を自助でまかなうのではなく、共助によるサポート体制づくりが必要。
・外国人も視野に入れた施設のユニバーサルデザインを取り入れ、より多くの人が使いやすいと思える整備が必要。

■**重点施策**

・ICT、オンラインなどを活用した学びの多様性の充実
・釜石らしさを活かした育ちのデザイン
・「ラグビーのまち釜石」の実現

産業雇用部会

●基本目標

未来をつくる人と産業が育つまち

基本目標に込める思い、決定に至る経過

人材育成と結びついた産業発展の戦略、地場の伝統や素材と結びついた釜石らしい地域産業育成の戦略が必要。

■基本目標を実現するために重要なこと

①既存事業の活性化

（取組主体：企業・行政・産業支援機関）

・零細企業の事業継承。今ある企業の活性化が必要。
・水産事業者など今釜石にいる人達が元気になってほしい。よりよくなってほしい。サービスレベルや品質改善・品質向上。それが地域の自信につながる。新規事業にも負けない気概。ブランドとして確立していくことが望まれる。
・新規事業がゼロからというところでは、既存は今あるものをもっと良くしていく。
・磨き上げ、一段の高みにあげたい。
・経営者のレベルアップ、経営力・リテラシー。
・リモートワークの推進
・海を大切に、汚さないように

②新規事業の創出

（取組主体：企業、行政、産業支援機関、金融機関、起業家、移住者）

・気遣い。
・企業誘致や第 2 創業、イノベーション。
・新技術、新しいビジネスマインド。
・今まで釜石に無かった産業、未来への投資。
・10 回中 1 回成功すれば OK くらいの気概で挑戦（失敗への投資）。
・新しい風を吹き込むことが産業発達に不可欠。
・既存事業者にもいい影響を及ぼすことを信じている。
・まちが変化に対応するためには新しいことに挑戦することが不可欠。
・ワーケーションの誘致
・海洋エネルギー、マリン産業などの促進

・鵜住居復興スタジアムの活用、スポーツ産業づくり、復興ツーリズム、伝承活動、人が人を呼ぶ

③中小企業の人材育成の強化

（取組主体：企業、行政、産業支援機関）

・経営者の育成。
・一人一人が自信を持って働き挑戦することを循環させていきたい。役割・成功体験。社員一人一人がビジョンを持って働く。
・そのためには経営者の育成・ビジョンを持つことが必要ではないか。
・人を育てることで産業が育つ。
・人への投資が一番高い。
・一人一人が経営マインドを持つこと。スキルセットのために教育投資が必要。
・スキルを持っている人がそれを認識すること。自分の価値を知ること。
・自己啓発・自己肯定。
・スキルの可視化、評価も必要になる。
・これまで釜石は外部人材による発展を遂げてきたが、定着人材への投資は弱かった。現在いる人材への投資を増やしていくことが不可欠。
・頼るのではなく協働。
・震災で支援に来ていたスキルのある人材はどんどん帰っている、減っている。この町で人が育つ環境づくりが必要になる。

④職場環境の向上

（取組主体：企業・行政・産業支援機関）

・ここで働きたいプラスこの会社の雰囲気が好き、そういう人材を増やしていきたい。
・ハード整備。バリアフリー、ワクワクする環境づくり。笑顔につながる。自慢できる。
・ソフト（評価・アワード）。理解ある職場環境にするために、多様性を認め合う環境づくり。
・給料はすぐに上げられないが、職場環境を変えることはすぐにでも着手できる。
・世代間の価値観のギャップを埋める。
・リモートワークの推進

■重点施策

・あらゆる産業の人材育成と多様な働き方の推進
・新たな分野への挑戦と既存企業の価値の創出

生活環境部会

●基本目標

人と自然が共存し、安心して暮らせるまち

基本目標に込める思い、決定に至る経過

<思い>

人と人が繋がり助け合えるコミュニティづくりをテクノロジーの積極的導入によって支援し、エネルギーや環境といった限られたリソースを無駄なく活用することで、人も資源も循環するまちづくりを目指したい、という思いを込めた。

<背景>

生活環境部会として抱える現状の問題を洗い出してみると、行政または市民の努力だけでは解決しがたい問題が存在する。例えば、広域路線バスの廃止・減便は、高齢化と人口減少が進む過疎地域においてやむを得ない状況で進められており、交通事業者の収益性を見込みながら増便を図ることは最早困難であると考えられる。大局的に見ればこの例のように、他の住民サービスも現状維持もしくは縮小せざるを得ない状況を想定しなければならない。

住民サービスを維持していくためには、互助・コミュニティの力が必要不可欠になる。しかし、互助する”ご近所さん”も高齢化が進んでいく中で、将来的に果たして互助は機能するのだろうか。このコミュニティの形成にこそ行政のサポートが必要であり、私達のチームはこの領域に「テクノロジーの積極的な活用」を強く願っている。

公的サービスへのテクノロジーの活用(GovTech)は次の 10 年で住民満足度を向上させる注力すべきターゲットとなる。上で挙げた路線バスの問題は自動運転モビリティが解決するかもしれない。仮に住民が一人一台双方向のネットワーク端末を所有し使いこなせるとしたら、互助の負荷も下がり更に高次元の住民サービスを提供できるようになるかもしれない。あくまでテクノロジーは手段に過ぎないが、5G や AI 等の活用によりコスト縮小と社会課題の解決を実現する可能性がある。

一方で、環境分野においてはテクノロジーに頼らず今すぐ努力が必要な側面もある。例えば、釜石市の 1 人 1 日あたり家庭系ゴミ排出量は岩手県内で常にワースト上位に位置する。岩手沿岸南部クリーンセンターの能力に甘えず、ゴミの分別やリサイクルが推進していく必要がある。

釜石市は優れたエネルギー施策によって、市内電力需要を大きく上回るエネルギーを生産している。特に再生可能エネルギーの発電量は人口規模から見ると特筆すべき点である。エネルギー豊かな釜石市としてエネルギーの地産地消やスマートコミュニティを更に推進することは釜石市のブランド向上に繋がると期待される。循環型社会の先進的な地域として、住みたい街の一助になると考えられる。

■基本目標を実現するために重要なこと

①交通や移動、交流の場面での人の循環

（取組主体：市民、企業、NPO、行政、町内会）

・移動や外出の負荷を減らすことが人の循環を活性化する。
・2020 年度に法改正が期待される自家用有償旅客運送等を積極的に導入し、支線部の住民の交通問題をコミュニティの力で解決する方策を模索する。
・自動運転モビリティやグリーンスローモビリティ等を積極的に導入し、市外から来る訪問者のアクセシビリティを向上させる。
・従来実施してきたオフラインでの地域コミュニティ形成（お茶っ子など）と並行して、オンラインのコミュニティ形成（LINE や仮想市役所）にチャレンジしていく。行政と市民が双方向のコミュニケーションを可能とするプラットフォームの整備を検討していく。
・安心安全なインフラの整備→道路の維持管理、防災
・人々が集う場の環境づくり→公園
※新たに作るのではなく、既存の利用促進がメイン

②エネルギーの循環

（取組主体：市民、企業、行政）

・釜石市内で発電される豊富な再生可能エネルギーを、市内の一般家庭や事業者が利用できるエネルギーの地産地消を推進していく。
・市内一般家庭や事業者の温室効果ガス排出量をモニタリングできる環境を整備し、傾向に基づいた対策を実施できるようにする。
・災害に強く環境負荷が低い、ペレットストーブ等の設置を推進する。
・地産木材を利用した木質バイオマス発電等を推進する。
・（長期的には）化石燃料の依存度を減少し、再生可能エネルギーの振興を図る施策を推進していく。

③自然環境の循環

（取組主体：市民、企業、ＮＰＯ等の非営利団体、行政、自主活動グループ）

・自然の豊かさを一般家庭や事業者にも浸透させ、環境に優しい洗剤・商品の利用や CO2 排出削減を促し、自然環境からの循環を意識させることが重要である。
・釜石市は国立自然公園や鳥獣保護区を有しており、自然環境の定点モニタリングによって他市町村以上に注意深く変化を観察する必要がある。
・釜石市は面積の 6 割を森林が占めている。カーボン・オフセットの推進等によって森林プロジェクトを積極的に支援していく。

・河川、海水の品質向上並びに水産業への影響も多大にあることから、森林の保全により、水産業を営む事業者への希望、価値創造へ繋げていく。

④ゴミ・廃棄物の循環

（取組主体：市民、企業、行政）

・一般家庭にリサイクルや分別を浸透させ、ゴミの排出量を減少させる。
・廃棄物を減少させた事業者に対して優遇する施策を実施する。
・欧米ではリサイクルの概念に含まれないサーマルリサイクルの依存度を減少させ、マテリアルリサイクルやケミカルリサイクルといった環境負荷が低いリサイクル方法を推進する。
・市内で開催されるイベント等において、リユース容器を推奨しゴミ削減の意識を啓発する。
・飲食店のフードロスを削減する施策を実施する。

■重点施策

・地域の特性を踏まえた持続可能な交通体系の構築
・省エネ、省資源による資源循環型社会の構築

危機対応部会

●基本目標

過去に学びみんなが命を守れるまち

基本目標に込める思い、決定に至る経過

・「命の尊さ」を市民一人ひとりが考え、自分の命は自分で守る＜自助＞を大前提として、＜共助＞、＜公助＞へとつなげていけるまちでありたい。

・防災をテーマに議論していると、聞こえの良い単語や今までと同じような単語が並んできてしまうが、いままでの震災の教訓を忘れず、これまで以上に意識や取り組みを向上したいと思い、基本目標に「過去に学び」を加えた。

・他人事、人任せにせず、常に自分事として考え、行動することを目指す。これを続けることで　⇒一人ひとりが未来（10 年後の釜石市民）に「命の尊さ」を伝えることが出来る。

・災害は自然災害に限らず、人的災害・感染症リスク等も含め広い視野で複次的な多様な危機を想定し、防災・減災に向け、しなやかに取り組まなければならない。

■基本目標を実現するために重要なこと

①市民目線の防災まちづくり＜公助＞

（取組主体：行政、市民、町内会）

・実行者の中心は行政になるが、市民や町内会もハード面についても自分事として行政に意見を言っていかなければならない。

・避難所を自然災害や感染症に対応した安全な場所、状態にする。

・避難道を整備する。

・備蓄を豊富にする。

・防災倉庫を設置する。

・指針、マニュアルを作成（改定）する。

・市民の命を守るための「体制（仕組み作り）」を構築する。

・行政単位でつくる文書は分かりにくい言葉も多く、市民に浸透しづらいため、“市民目線”がキーワードになる。

②まちぐるみの防災活動＜共助＞

（取組主体：全員）

・共に助け合うことで、災害からより多くの命を守り未来に継ぐことが大事である。
・互いに意識を高めながらつながる事で未来に命を継ぐことが大切である。
・防災に関する情報を共有する。
・学校だけに任せるのではなく、町内会や行政、まちぐるみで訓練や教育を行うべき。
・地域で防災教育を継続する。
　→津波防災だけではなく、土砂災害の防災や感染症などにも目を向け災害に合わせた対応を地域や行政、学校などが連携して学ぶ必要がある。
・地域住民、企業、団体が一緒に避難訓練する。
・地域の避難訓練の参加率を高める。
・まちぐるみの防災活動を展開する→イベントに防災を織り込む。
　「○○×防災」の発想。（例）パラ運動会×防災、スタンプラリー×防災…等
・炊き出し体験やワークショップなど楽しみながら参加してもらう。
・「楽しく遊ぼう災」をスローガンにする。

③一人ひとりの防災意識向上＜自助＞

（取組主体：全員）

・「釜石市防災市民憲章」等の行動指針を市民一人ひとりが理解する。
・自分の命は自分で守る。受け身にならない。個々の意識を向上させ、地域に波及させていく。
・家族や友達と話し合うことを個々が意識して行動する。
・自分が避難。
・全員が危機意識を持つ。
・災害の知識をつけ想像力を養う。
・各世代の防災教育を強化！！一人ひとりが自分事とする。
・防災とは何かを知ることで市民が自覚を持つ。
・「自分の命は自分で守る」の本当の意味を理解し、意識する。
・防災意識を維持。維持させるには何を行うべきか考え実行し続ける。

■重点施策

・自助・共助・公助による防災まちづくりの推進
・未来に繋ぐ防災教育の実践

地域づくり部会

●基本目標

全市民参加でつくるまち

基本目標に込める思い、決定に至る経過など

・誰もが過ごしやすい（包摂）まちづくりを推進することで次世代の子ども達もいきいきと過ごしやすいまちになっていく。

・基本目標を二つ（①多世代と一緒に作るまち②次世代に未来を引き継ぐまち）出していたものを一つにまとめた。色々な意見を出し合ったところ、「市民参加型のまちをつくっていきたい」ということに気付いた。全市民参加に目標（いわて№1）も加えた。

・第１回目に配付されたアンケートの中で、市民参加型で作ったほうが良いという回答が上位になっている。市と市民が半々というのを含めると、7～8 割がそのように感じている一方で、実際に活動に参加しているかという設問に対しては、低い割合であり、今後の釜石にとって大きなテーマになる部分だと思う。

■基本目標を実現するために重要なこと

①多世代と一緒につくる

（取組主体：一般市民、企業、NPO 等の非営利団体、行政、町内会、自主活動グループ、小中学校、高校）

・町民運動会、お祭り。

・親以外との大人との関わり。

・釜石の歴史を学び世代間交流を活性化する。

・少子高齢化、核家族化が進む中、未来のまちをつくる上で、地域に生きる子どもたちは、市民みんなの宝だ。まちの子どもをみんなの手で知恵をもちより育てる機会づくりを進めたい。

・地域の歴史、文化を学び継いでいく。

②多様性をみとめ合う

（取組主体：一般市民、企業、NPO 等の非営利団体、行政、町内会、自主活動グループ、小中学校、高校）

・人と交流する。　・違いを認め合う。　・違う世界にふれあう機会をつくる。

・多様性を認め合い誰も取り残さない受け皿を地域にしていきたい。

③次世代に未来を引き継ぐ

（取組主体：一般市民、企業、NPO 等の非営利団体、行政、町内会、自主活動グループ、小中学校、高校）

・歴史文化
・ちょっと先に目線をおく。
・未来を想像する。

④ハートとハードのバリアフリー

（取組主体：一般市民、企業、NPO 等の非営利団体、行政、町内会、自主活動グループ、小中学校、高校）

・情報収集の場をつくる。
・思いやり
・子ども、障がい者、高齢者、それぞれの目線、立場に立って考える。

⑤市民活動に主体的に関わる

（取組主体：一般市民、企業、NPO 等の非営利団体、行政、町内会、自主活動グループ、小中学校、高校）

・敷居を低くする。
・興味を持つ。

資料編

かまいし未来づくり委員会要綱

（設置）

第1条　釜石市の総合計画の策定にあたり素案を調整し市長に提言するため、かまいし未来づくり委員会を置く。

（組織）

第2条　かまいし未来づくり委員会は、委員60人以内をもって組織し、委員は、次に掲げる者のうちから市長が委嘱する。

(1)　市長が公募し、決定したもの

(2)　その他市長が必要と認めるもの

（報酬）

第3条　委員に対する報酬は、支給しない。

（委員長及び副委員長）

第4条　かまいし未来づくり委員会に委員長及び副委員長1人を置き、委員の互選とする。

2　委員長は、会務を総理し、会議の議長となる。

3　副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるとき又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

（会議）

第5条　かまいし未来づくり委員会は、委員長が招集する。

2　委員長は、必要と認めたときは、委員以外の者に出席を求め、意見を聴くことができる。

（庶務）

第6条　かまいし未来づくり委員会の庶務は、総務企画部総合政策課において処理する。

（補足）

第7条　この要綱に定めるもののほか、かまいし未来づくり委員会の運営に関し必要な事項は、市長がかまいし未来づくり委員会に諮って定める。

附　則

1　この告示は、公布の日から施行する。

2　この告示は、令和3年3月31日限り、その効力を失う。

かまいし未来づくり委員会　委員名簿

1	相原　啓実	22	木村　保英	43	戸塚　絵梨子
2	◎青木　健一	23	小岩　昭	44	土橋　詩歩
3	伊瀬　聖子	24	小松野　麻実	45	中里　麻衣
4	○市川　淳子	25	金野　義男	46	花坂　康志
5	井筒　健太郎	26	佐久間　定樹	47	常陸　奈緒子
6	伊藤　聡	27	佐々　学	48	平田　裕彌
7	猪又　信幸	28	佐々木　江利	49	廣田　一樹
8	今井　のどか	29	佐々木　駿	50	深澤　鮎美
9	大橋　祐子	30	笹村　聡一	51	藤井　静枝
10	岡澤　駿	31	佐藤　啓太	52	細江　絵梨
11	小原　裕也	32	佐藤　弘樹	53	前川　智克
12	柏木　功好	33	宍戸　文彦	54	三上　雅弘
13	柏﨑　未来	34	清水　延康	55	宮崎　達也
14	金井　仁	35	下村　達志	56	向野　修得
15	神脇　隼人	36	城守　理佳子	57	八幡　達史
16	川畑　郁美	37	菅原　真子	58	山口　俊貴
17	菊池　直樹	38	瀬戸　元	59	山口　政義
18	菊地　広隆	39	多田　創一	60	由木　加奈子
19	北辻　巧多郎	40	谷藤　稔	61	横澤　京子
20	黍原　豊	41	千葉　隆治	62	吉野　和也
21	君ケ洞　剛一	42	東梅　和輝		

◎委員長

○副委員長

かまいし未来づくり委員会　部会別名簿

保健福祉部会（10 人）	
相原　啓実	伊瀬　聖子
小原　裕也	○柏﨑　未来
黍原　豊	佐久間　定樹
◎下村　達志	東梅　和輝
土橋　詩歩	深澤　鮎美

生活環境部会（10 人）	
○今井　のどか	大橋　祐子
菊池　直樹	佐々　学
佐々木　駿	宍戸　文彦
多田　創一	◎花坂　康志
平田　裕彌	廣田　一樹

教育文化部会（11 人）	
市川　淳子	◎伊藤　聡
岡澤　駿	柏木　功好
笹村　聡一	谷藤　稔
○常陸　奈緒子	藤井　静枝
三上　雅弘	八幡　達史
由木　加奈子	

危機対応部会（10 人）	
井筒　健太郎	金井　仁
川畑　郁美	木村　保英
小岩　昭	○小松野　麻実
◎佐藤　啓太	菅原　真子
細江　絵梨	前川　智克

産業雇用部会（11 人）	
青木　健一	◎菊地　広隆
北辻　巧多郎	佐々木　江利
城守　理佳子	瀬戸　元
戸塚　絵梨子	宮崎　達也
○向野　修得	山口　俊貴
吉野　和也	

地域づくり部会（10 人）	
猪又　信幸	神脇　隼人
◎君ケ洞　剛一	金野　義男
佐藤　弘樹	清水　延康
千葉　隆治	中里　麻衣
山口　政義	○横澤　京子

◎班長

○書記

運営スタッフ

コーディネーター：

特定非営利活動法人アットマークリアスＮＰＯサポートセンター
代表理事　鹿野順一　氏

アドバイザー：

公立大学法人岩手県立大学総合政策学部長
教授　吉野英岐　氏

運営支援：

株式会社邑計画事務所

事務局：

釜石市総務企画部総合政策課

委員会開催記録

第１回

日時：令和元年 12 月 26 日（木）　18：30～20：30
場所：釜石市民ホール　ＴＥＴＴＯ　ホールＢ

〇市長挨拶
〇委嘱状交付
〇委員長及び副委員長選出
〇委員長挨拶
〇議事
・活動に関する概要説明
・釜石市総合計画策定概要について
・次期釜石市総合計画に係るアンケート調査結果について






第２回

日時：令和２年１月 10 日（金）　18：30～20：30
場所：釜石市民ホール　ＴＥＴＴＯ ホールＢ

〇コーディネーター・運営スタッフの紹介
〇議事
・新しい釜石市総合計画策定の基本的な考え方について
→釜石市及び各部会に関連する施策の現状について、市担当職員から説明
・かまいし絆会議の結果について
〇各部会で班長・書記を選出、部会ごとに自己紹介
〇部会別協議
・現状のふりかえり①
→各部会で「現状確認＋ＫＰＴ（続けるべきこと、抱えている問題、トライすること）」による現状分析
・共有・ふりかえり
→各部会の協議結果を発表






第３回

日時：令和２年１月 29 日（水）　18：30～20：30
場所：チームスマイル 釜石ＰＩＴ

〇部会別協議
・現状のふりかえり②
→現状の振り返り①で実施したＫＰＴの結果をもとに意見交換、まとめ
・共有・ふりかえり
→各部会の協議結果を発表
〇部会別協議
・基本目標の検討①
→ＫＰＴでまとめた資料をもとに部会別の基本目標を検討






KPT シート集計

各部会から出された付箋の数

	保健福祉	教育文化	産業雇用	生活環境	危機対応	地域づくり
Try/Keep	63	53	34	49	56	39
Problem	50	24	28	22	20	19
Total	113	77	62	71	76	58

⇒　これまで会全体で使用した付箋の数　約 720 枚

（キーワード、基本目標で使用したものを含む）

各部会から出された付箋のエッセンス

エッセンス	個数	出されている部会	付箋の内容
防災	36	教×生×危	・防災教育の継続 ・水攻めに弱い ・防災意識の低さと避難訓練の参加率の低さ
子ども	34	保×教×生×危	・地域で子どもを見守る環境づくり ・子どもたちが夢をもてるような取り組み ・子ども～お年寄りまで集まれる場をつくる
地域	33	保×教×産×生×危×地	・世代を超えた地域活動 ・地域内外の大人と子どものふれあいの場 ・学校と地域の連携
教育	25	保×教×産×危	・釜石で同じビジョンをもった教育をする ・地域の産業を知るための教育 ・防災教育
情報	22	保×教×産×生×危	・子育て情報サイト ・働く人を取り上げる媒体 ・要介助者の地域での把握

エッセンス	個数	出されている部会	付箋の内容
意識	21	保×産×危×地	・バリアフリー（ハードとハート） ・危機意識の地域格差
人材	20	保×教×産	・釜石全体で人財育成 ・人材確保
居場所	17	保×教×産	・子どもの居場所 ・多様な居場所づくり
交通	17	保×生	・免許返納による孤立化（交通難民） ・習い事、学童などへの送迎バス・タクシー
高齢者	16	保×生×危	・高齢者の健康づくりの場 ・年配の方のコミュニティ
避難訓練	16	保×危×地	・全市民が避難訓練に参加する ・避難訓練の定期的実施
健康	14	保×生	・健康寿命を延ばす ・子ども期からの健康のための生活習慣づくり
つながり	12	保×教×産×危×地	・つながりが出来る仕組みづくり ・経営者同士のネットワーク

保健福祉部会

	Try / Keep	Problem
医療不安	・医大生の研修の受け入れ ・薬剤師の活用（訪問など）	・医師の高齢化 ・診療科の不足
健康な生活	・公民館対抗スポーツ大会の拡充 ・減塩食の普及促進	・車社会で運動量が低下 ・子どもの食生活環境
高齢者	・高齢者の健康づくりの場 ・高齢者、子育て支援施設従事者への賃上げと、スキルアップサポート	・健康づくりを実施出来る人材不足 ・高齢者ケアの不行き届き ・福祉の担い手不足
子育て	・子育て情報サイト掲示板の充実 ・行政と民間が連携して困難を抱える子どもを支援している	・子育て情報が届いていない ・子ども福祉に関する地域資源が少ない
安心安全	・地域福祉コーディネーターを各地区に配置する ・高齢者の交通事故を減らす	・地域で子どもを見守る環境への不安 ・免許返納による孤立化
居場所	・フリースクール、フリースペース等誰でも来られる居場所の整備 ・多様な居場所づくり	・子どもの居場所 ・居場所がなくて（少なくて）困っているひとがいる
社会生活	・行政で手いっぱいのイベント等をどんどん民間の団体に委託していく ・制度を横断して個別、地域支援出来るソーシャルワーカー機能をつくる	・ひきこもり対策 ・障がい者の地域参加や地域とのつながりが薄い

教育文化部会

	Try / Keep	Problem
学校教育	・市外高校への転出しないよう釜石高校への支援 ・ＩＣＴを活用した学校教育 ・保、幼、小、中の連携	・施設改善、トイレ、バリアフリー ・少子化に伴う学校統合 ・多様性が認められる学校生活 ・学校が楽しいと思える毎日
社会教育	・子どもたちのあいさつ運動 ・地域内外の大人と子どもが触れ合う機会を増やす ・地域住民が先生になる ・学校と地域の連携 ・出身大学生の活躍の場×高校生 ・自分らしくいられる第3の居場所を各地に ・遊びを通した学び ・横の繋がりを担う組織づくり	・優秀な子どもが外に出ていく ・子どもが求める内容でキャリア教育 ・岩大の定員が少ない ・若者が定着するための企業が必要 ・市民参加人材の掘り起こし ・子どもたちが体を動かして遊べる場が少ない ・社会教育実践者の持続性
スポーツ文化	・釜石らしさを生かした教育 ・北海道、北東北の鉄のまとめ ・ラグビーのまちとして子ども達への普及 ・高校生の就職者が地元希望 ・スポーツ文化交流	・各スポーツイベントに統一性がほしい ・ラグビーに関心がない ・大槌町との壁打破

産業雇用部会

Try / Keep

・釜石全体での人財育成
・まちの人事部を作って人財開発
・人財への投資額№1
・スキル定着のためのスクール、資格取得に向けた支援
・公務員の中小企業派遣
・新卒へのアプローチ
・ＵＩターンに対する交通費
・就労に至るまでのフォロー
・経営者同士のネットワーク
・震災以後つながった人たちとの交流
・時短ワーク（ごきんじょぶ）
・給与水準の向上
・プチ勤務の強化、啓蒙
・ママたちがフレキシブルに働ける環境
・職場保育
・事業者の経営支援
・働く人を取り上げる媒体
・失敗してもいいチャレンジ

Problem

・人財育成の場が少ない
・新たな人財が企業にどっぷりつかっていない
・進んで勉強出来る環境がない
・あこがれの人が地元にいない

・高校生の地域外への流出
・横のつながりがない
・新しい人財を知る機会が少ない
・ＵＩターンで戻って働きたい仕事が少ない

・給与が低い
・正規雇用が少ない
・子育てしながら働ける環境
・募集はブルーカラー（現場）が多い
・求人票で仕事が判断されている
・何かあるとウワサになりがち

生活環境部会

Try / Keep

交通

・二次交通（自転車など）の推進
・各世帯を訪問し意向調査
・地区内乗合タクシー
・公共交通として観光船を出す
・自動運転の社会実験

環境

・家庭用クリーンエネルギーへの助成
・フードロスの削減
・あまりもの情報の共有
・おすそ分け文化
・水の安全を守る
・クリーンアップ大作戦
・安全な自然の中の遊び場
・wifi無料

コミュニティ

・空き家、空き店舗を資産として利用
・空き家を活用した移住定住推進
・年配の方のコミュニティ
・子どもからお年寄りまで気軽に集まれる場をつくる
・ご近所付き合い強化
・スマートコミュニティモデル地域

Problem

・へき地の老人へのインフラ不足
・高齢化
・三鉄、バスがネットで検索出来ない

・ゴミ排出量県内ワースト1
・休日釜石から出ていく人が多い
・公園が少ない
・クリーンアップの参加者層の巻き込み

・自治会の運営力不足
・コミュニティの硬直化、排他化
・コミュニティの分断
・ひとり暮らしのお年寄りが多い

危機対応部会

	Try / Keep	Problem
意識	・自分が避難 ・避難意識の向上 ・全市民が自覚を持ち訓練に参加 ・釜石市内の学生の防災意識 ・防災市民憲章を広める。	・災害は津波だけでなく火災台風もあるという認識 ・防災意識の低さと避難訓練の参加率の低さ ・土砂災害時の避難行動の難しさ
地域の繋がり	・町内の啓もう思想を図る ・地域のコミュニティ強化 ・要介助者の地域での把握	・危機意識の地域格差 ・社会人はついつい仕事優先である ・高齢で歩くのがおっくう
防災無線	・防災無線の難聴地域を無くす ・防災無線をデジタルに（LINEなど）	・情報を知らない
マニュアル	・全ての課題の洗い出し、見える化 ・市の重点項目を具体的、身近な文書にする	・分かりやすい文章の作成 ・文字だけだと難しいので、絵・写真などの活用
消防	・ふるさと納税を町内会or消防団へ ・消防団の新規入団	
○○ × 防災	・パラ運動会×防災 ・キャンプ体験×防災 ・スタンプラリー×防災 ・楽しく遊ぼう災 ・おいしい防災食のふるまい	・避難場所が浸水する

地域づくり部会

	Try / Keep	Problem
地域 つながり	・つながりが出来る仕組み ・町内会や自治会と連携した新たなコミュニティづくり ・Ｉターン者や転勤族らと地元の人との交流の場づくり ・つながり人口の拡大 ・つながり人口の具体的な数字を理解する	・定住につながりづらい ・賃金が安い ・家賃が高い ・住民同士の人間関係 ・魅力的な就業環境 ・行政に頼りがち
若者	・関係人口への注力 ・次世代とともにつくるまちづくり ・市内の若者が住み続けられること	・少子高齢化 ・世代間の交流不足 ・高校の選択肢の少なさ
誰もが過ごしやすい環境	・バリアフリー（ハードとハート） ・ユニバーサルツーリズムの推進 ・最期まで暮らせるまち ・釜石のブランディング ・小中生の郷土愛の醸成 ・地域全体で共有できること ・地域内での内需拡大	・ハコモノ行政 ・維持費がかかる ・コンセプトなきまちづくり ・地元のお店が継続できる仕組み ・地域としての特色がなくなる

第４回

日時：令和２年２月 12 日（水）　18：30～20：30
場所：チームスマイル 釜石ＰＩＴ

〇部会別協議
・基本目標の検討②
→基本目標の検討①に引き続き、部会別の基本目標を検討、まとめ
・共有・ふりかえり
→各部会の協議結果を発表
〇部会別協議
・基本目標に向けた戦略及び実行者の検討①
→部会別の基本目標を実現するための戦略及び実行者を検討



第５回

日時：令和２年２月 27 日（木）　18：30～20：30
場所：チームスマイル 釜石ＰＩＴ

〇部会別協議
・基本目標に向けた戦略及び実行者の検討②
→基本目標に向けた戦略及び実行者の検討①に引き続き、部会別の基本目標を検討、まとめ
〇全体会
・成果発表
→各部会がまとめた基本目標、戦略及び実行者について成果を発表
・アドバイザーによる講評
→各部会の発表内容について、アドバイザーが講評
〇部会別協議
・基本目標、戦略及び実行者の再検討①
→アドバイザーの講評を受けて、部会別の基本目標、戦略及び実行者を再検討







第６回

日時：令和２年３月 13 日（金）　18：30～20：45
場所：釜石市民ホール　ＴＥＴＴＯ　ホールＢ

〇部会別協議
・基本目標、戦略及び実行者の再検討②
→基本目標、戦略及び実行者の再検討①に引き続き、部会別の基本目標、戦略及び実行者を再検討、まとめ
〇班員構成変更
〇班別協議
・市の将来像の検討①
→変更後の班のメンバーで市の将来像の検討






第７回

日時：令和２年３月 26 日（木）　18：30～20：30
場所：釜石市民ホール　ＴＥＴＴＯ　ホールＢ

〇全体会
・市の将来像の検討②
→委員の投票により、「市の将来像（案）」を 11 案から３案に絞り込み
〇部会別協議
・市民の役割の検討①
→各部会の基本目標、戦略及び実行者の検討結果を参考に、委員が仮想的に各実行者に分かれ、各実行者が戦略の推進に向けて具体的にどのような役割を担うべきかについて検討






第８回

日時：令和２年５月 21 日（木）～27 日（水）　18：30～20：30
場所：釜石市役所第 4 庁舎 第 7 会議室 1-2、教育センター5F 岩大教室
※新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から部会毎に開催。

〇報告事項
中間報告書提出について
〇部会別協議
・戦略及び実行者の検討
→中間報告書の内容について最終確認
・重点施策の検討
・将来像の検討
→中間報告書提出の結果を踏まえ、重点施策と将来像について再検討

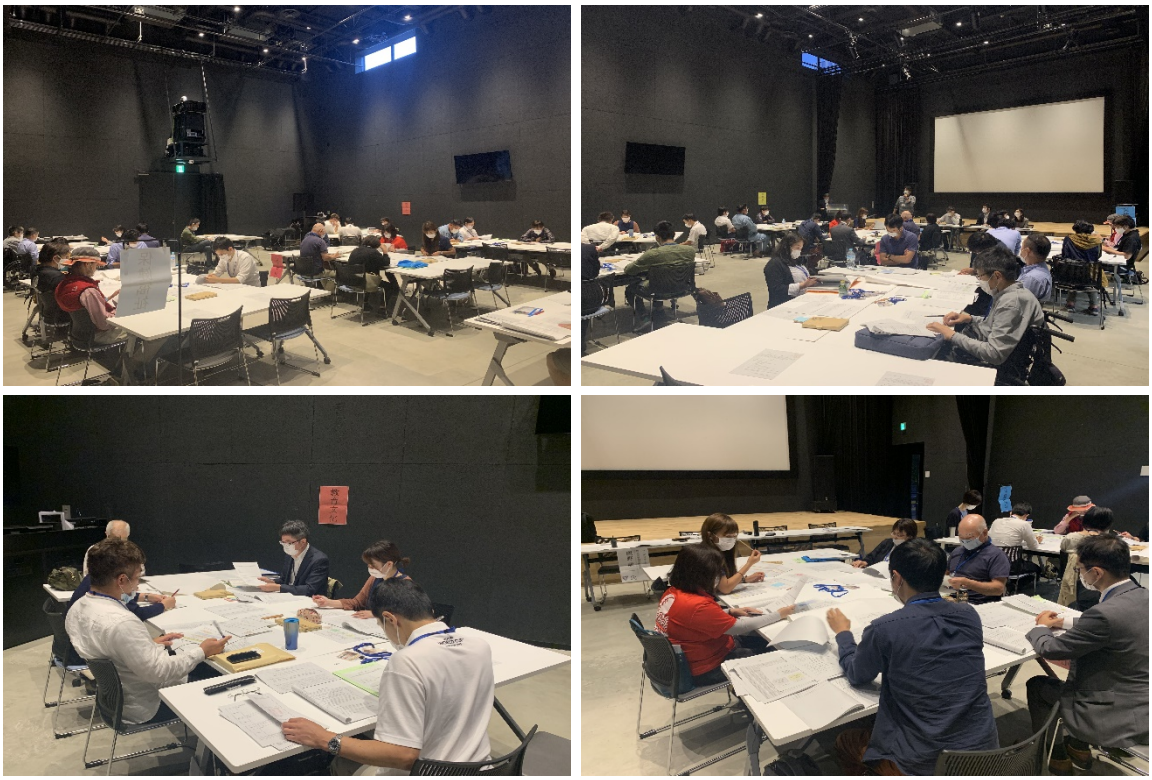





第９回

日時：令和２年７月 13 日（月）　18：30～20：30
場所：チームスマイル・釜石ＰＩＴ

〇報告事項
・第 8 回かまいし未来づくり委員会開催結果について
・清和クラブ・創政会第 1 回合同全体学習会開催結果について
・地域会議議長会議開催結果について
〇部会別協議
・戦略及び具体施策の検討
　→中間報告書の内容について最終確認
・重点施策の検討
・将来像の検討
　→第 8 回委員会の検討結果を踏まえ、重点施策と将来像について再検討



第 10 回　※かまいし絆会議と併催

日時：令和２年８月７日（金）　13：30～16：00

場所：釜石市民ホールＴＥＴＴＯ　ホールＡ・Ｂ

〇これまでの取り組みの成果発表

＜かまいし未来づくり委員会＞

新しい釜石市総合計画策定に関する提言書　中間報告書について

＜岩手県立釜石高等学校＞

ＳＳＨ（ｽｰﾊﾟｰｻｲｴﾝｽﾊｲｽｸｰﾙ）地域ゼミの活動について

〇意見交換会

テーマ１：活気があふれ人が多いまちづくりについて

テーマ２：ラグビーで盛り上がれるまちづくりについて

テーマ３：防災のことをしっかりと受け継ぐ防災意識の高いまちづくりについて

テーマ４：ごみが無いきれいなまちづくりについて









目指すべき将来像

一人ひとりが学びあい 世界とつながり未来を創るまち かまいし
～多様性を認めあいながらトライし続ける不屈のまち～

基本目標	あらゆる人の幸せをみんなで考えつくるまち	地域と人のつながりの中でみんなが育つまち	未来をつくる人と産業が育つまち	人と自然が共存し、安心して暮らせるまち	過去に学びみんなが命を守れるまち	全市民参加でつくるまち
基本目標を実現するための戦略	保健・医療・福祉・子育て	教育・歴史・文化・スポーツ	地域産業・経済	自然環境・都市基盤・防犯	防災	地域づくり
	1 オール釜石での横断的支援環境づくり 2 健康への投資や教育の積極的な推奨 3 子どもや要配慮者の権利の保障 4 社会や個人が支え合う仕組みづくり 5 福祉や健康の担い手の充足 6 ICTを活用した見守り、情報伝達、遠隔医療の実施	1 多様な学びの創出 2 釜石らしい文化の継承 3 釜石らしいスポーツの活用 4 活動の主体をサポートする取り組み	1 既存事業の活性化 2 新規事業の創出 3 中小企業の人材育成の強化 4 職場環境の向上	1 交通や移動、交流の場面での人の循環 2 エネルギーの循環 3 自然環境の循環 4 ゴミ・廃棄物の循環	1 市民目線の防災まちづくり〈公助〉 2 まちぐるみの防災活動〈共助〉 3 一人ひとりの防災意識向上〈自助〉	1 多世代と一緒につくる 2 多様性をみとめ合う 3 次世代に未来を引き継ぐ 4 ハートとハードのバリアフリー 5 市民活動に主体的に関わる
重点施策	・健康寿命日本一へのトライ ・オール釜石でのネットワークの強化 ・子どもの貧困への対策	・ICT、オンラインなどを活用した学びの多様性の充実 ・釜石らしさを活かした育ちのデザイン ・ラグビーのまち釜石の実現	・あらゆる産業の人材育成と多様な働き方の推進 ・新たな分野への挑戦と既存企業の価値の創出	・地域の特性を踏まえた持続可能な交通体系の構築 ・省エネ、省資源による資源循環型社会の構築	・自助・共助・公助による防災まちづくりの推進 ・未来に繋ぐ防災教育の実践	計画の推進

将来像に込める想い

震災後、急速に加速した人口減少、少子高齢化、世帯分離、高齢者のひとり暮らし、地域コミュニティのあり方など、様々な要因から派生する社会の課題に対応していくためには、人と人のつながり、地域と人のつながり、地域と地域のつながりがこれまで以上に重要となります。

釜石市内にはＩターン、Ｕターン、支援をきっかけとした移住者、外国人労働者など、さまざまな価値観を持った人たちも増えました。この先のまちづくりには多様な価値観、人、生き方、働き方などを共に認め合い、立場や役割、世代間を超えて学び合うことにより柔軟な思考や新たな発想が生まれ、それを生かし挑戦し続けることも重要です。

東日本大震災からの復興やラグビーワールドカップ2019™釜石開催の過程において、私達は世界中から温かいご支援をいただきましたが、そこで生まれた世界とのつながりを大切にし、これからのまちづくりに生かしていきます。

これまで釜石市は災害や戦災を乗り越え、復興を成し遂げてきましたが、そこには先人たちの「鐵」のような意思の強さやたくましさを感じます。これからは先人から受け継ぐ意思の強さと共に「鐵」のように何度でも形を変え、生まれ変わり進化し続けるしなやかさといったマインドを積み重ねていきながら、力強くも、めまぐるしい時代の変化に柔軟に対応し、信念を持ちながら、しなやかに未来を創っていきます。

新しい釜石市総合計画策定に向けた提言書

令和２年１１月１６日

編集・発行　　かまいし未来づくり委員会

連絡先　　釜石市総務企画部総合政策課
〒026-8686　岩手県釜石市只越町３丁目９番 13 号
電話　0193-27-8413（直通）